

留学報告書 ～留学で学んだこと～

ミドルテネシー州立大学
外国語学部（長期）

私はアメリカのテネシー州にあるミドルテネシー州立大学に長期留学で行った。留学で学んだことや成長したことを、勉強や人間関係、旅行などの観点からまとめる。

まず初めに授業についてだ。名古屋学院大学では履修できないような授業を受けることができ、専門的な知識が身についた。秋学期は、音楽、アート、ホスピタリティ、中国語の授業を取った。音楽の授業では世界の音楽を学び、実技ではなく有名なアーティストや音楽の種類などの知識を身に着ける内容だった。アートの授業では、宿題として授業で習った技法を使いアートを作成した。どちらも外国語学部の私にとって貴重な経験になり、自分の視野が広がった。例えば、美術館に足を運ぶようになっただけでなく、アートの見方も変わり、どんな技法が使われているかが少しわかるようになった。音楽でもジャズなどの今までに聞いてこなかったジャンルの音楽に興味を持つようになった。ホスピタリティや中国語は、観光業に就職をする私に直接役に立った。中国語の学習の意欲も高まり、今後も続けて勉強したいと思った。

秋学期の授業は新たにコミュニケーションの授業を取った。この授業は人生において役に立つようなコミュニケーションの知識や人間関係を築くことの大切さを学ぶような授業だった。例えば自尊心についてである。自尊心が高い人は、自尊心が低い人よりも社交的で人とつながりを求めようとする。また、ストレス体制が高く一人でいる時間も楽しむことができる。この知識はこれからの人生を幸せに生きるために欠かせない知識だと思った。他にも、人とのコンフリクトについて学んだ。人とのすれ違いや、喧嘩は自然なことでお互いのゴールの違いから生まれると学んだ。この授業からルームメイトと喧嘩したときに、感情的にならずに仲直りするために行動できたし、この喧嘩をしてしまうことは自然なことだと受け入れることができた。授業が終わった後も教科書を通してたくさんのことを学べているのでお気に入りの一冊となった。

次に、留学での人間関係についてだ。英会話の不安はあったが、友達を作り、その友達と様々な経験を重ねることで、人間関係を築く自信を持てるようになった。友達は授業やクラブ活動、さらには他の日本人の友達を通じてできた。英語に関しては、話したいことがうまく言えなかったり、相手の言っていることが分からずに聞き流してしまうこともあったが、それでも友達と予定を組んで遊びに行くなど、毎週のように楽しむことができた。そして人間関係を築くのに大切なのは人柄だと思った。英会話は調子がいいときもあれば、悪いときもありスポーツのような感覚だった。内容によっても自分が話せることもあれば、何も話することがないときもあった。また、少しでもスムーズに英会話ができるように、隙間時間に表現を増やすための学習をした。友達とクラブ活動や旅行に行く前は映画を見て、英語を聞きとれたり話せたりする状態にしてから挑むなどをした。結果的に、留学前よりも成長を感じることができたし、すらすらと話せるようになった。

アメリカで人と関わる中で様々な文化の違いを学ぶことができた。アメリカは日本よりも人との時間を大切にし、会話を娯楽として楽しんでいるのだと思った。立ち話で二時間くらい話すことや、パーティに行っても何時間も会話をしているのが印象的だった。はじめは早く話しが終わらないかなとか、パーティでもすぐに帰りたいなと思っていたが、留学の途中から人との会話が楽しくなり、みんなと同じくらいの口数で話していた。このような文化は素敵だなと思い、アメリカで暮らしたとしても楽しく過ごせそうだと感じた。



また、仕事や上下関係についても文化の違いを感じた。アメリカでは、みんなが平等に接しており、日本人のように上の人の言うことを聞かなければならないという文化はなかった。仕事も、日本では上司の目や客の評価を気にし、丁寧に仕事をしているイメージだが、アメリカはもっと気楽に働いているように感じ、自分を大切にしていると思った。帰国後に就活をし、日本は少し窮屈に感じる国だなと思ったが、そのようなことを実体験から学べてよかった。これから働くときは周りの目を気にしすぎることなく働きたい。

日本人との関わりからも学ぶことが多かった。日本人も外国人も平等に接することで、人間関係がうまくいったと感じている。困ったときには助け合い、かけがえのない友達ができたと感じている。また、日本人の友達からの評価を通じて自分のことをより知ることができた。例えば、「アメリカに向いているね」と言われたときには、アメリカの食生活も含めて自分に合っていると知ることができた。また、ラスベガスに一人で行ったときには、「度胸があるね」と言われ、自分が挑戦することができることを実感できた。

次は旅行についてである。旅行はニューヨーク、フロリダ、ラスベガス、アトランタに行った。どの旅行も刺激的で心に残る経験となった。まず、安い飛行機を予約し、有名な観光地を漏らすことなく回るための綿密な計画を立てた。そして有名な観光地に行くことができ、夢だったものが意外と簡単に行くことができ、世界が広がった気がした。また次はどこに行こうと考えるようになり海外旅行に興味がわいてきた。留学中は国内線でアメリカを旅することができ、工夫次第で大変安く旅行をすることができた。円安の今、留学中にたくさんの場所に旅行に行けて、ありがたいことだなと感じた。特にラスベガスは一人で旅行に行くことに挑戦した。理由は一人でラスベガスに行ったという事実がこれからの人生に自信になると思ったからだ。大きなトラブルが起きずにスムーズに旅行ができ、自分は思ったより心配性で大変なことが起きないように慎重に動く人だなと感じた。またその時に訪れたグランドキャニオンの景色が心に残り、まるで現実ではないような景色でずっと眺めていた。ホスピタリティの授業で「心から感動したことは一生忘れない」と習った言葉を体現することができたと感じ、旅行も含めて留学生活は一生忘れられない思い出となった。

長期留学で本当に良かったと感じている。新しい友達をたくさん作り楽しく過ごせた。その友達にまた会いに行きたいと思っている。特に留学の初めの一週間ほどは苦しくて悩んだが、つらいことも乗り越えやり切ったと思える留学になってよかった。また、自分の視野も広がって将来は海外で生活したいと感じた。自分と向き合う期間でもあり、留学に行く前は英語も人間関係も難しそうなイメージを持っていたが、思ったよりも簡単に臨機応変に乗り越えることができ、自信がついた。今後は友達と連絡を取り続け、また会える機会を楽しみにしている。